



ネフスキーと東京時代の師友たち。前列左から金田一京助、ネフスキー、柳田国男、中列左端折口信夫。

### ネフスキー略歴

- 明治25年：ロシア・ヤロスラヴリにて誕生。  
 明治43年：ペテルブルグ大学東洋学部・中国日本学科に入学。  
 大正2年：夏休みに2カ月間来日。日本文学を研究。  
 大正4年：国費派遣留学生として来日。東京本郷に滞在。  
 大正6年：ロシア革命により本国から送金停止。「明露商會」で働く。  
 大正8年：小樽高等商業学校にロシア語教師として赴任。翌年萬谷イソと結婚。（事実婚）  
 大正11年：大阪外国語学校に転任。  
 昭和4年：ソ連に帰国。レニングラード大学助教授となる。  
 昭和8年：イソ母子ソ連に移住。  
 昭和12年：10月逮捕。4日後にイソも逮捕。11月銃殺。  
 昭和32年：名誉回復。  
 昭和37年：レーニン賞没後受賞。  
 平成4年：ロシア科学アカデミー東洋学研究所で、ネフスキー生誕100周年記念講演会開催。  
 平成14年：宮古島平良市でネフスキー生誕110周年記念シンポジウム開催。顕彰碑除幕。「ネフスキー通り」が制定される。  
 （生田美智子編「資料が語るネフスキー」より）



履歴書

外国人教師は英語で履歴書を送ってくるのが常だったが、ネフスキーは自筆の和文履歴書を提出し、学校側を驚かせた。



契約書



ネフスキーの曾孫であるヤーナさんとジェーニャさんは、曾祖父の影響を受け、サンクトペテルブルグ大学日文学科に進学、現在山梨学院大学に留学中である。お二人にネフスキー、そして彼が愛した日本について話を伺った。

日本へ留学しようと思ったきっかけは何ですか？

祖母と母は私たちが子供の頃から曾祖母と曾祖父のことを話してくれました。曾祖母が日本人ですので、私たちの祖母も日本語を学びたいと望んでいましたが、当時は日本語を学べる状況ではありませんでした。母も先祖の暮した日本に興味を持ち、日本語の講座に出て、一生懸命勉強して上達しましたが、祖母の突然の入院で講座をやめてしまいました。祖母も母も日本に対する親近感を伝えてくれたおかげで私たちも先祖の使った言語と文化に興味をそそられました。それがきっかけで、学校時代から日本の文化と言語に少し触れ、サンクトペテルブルグ国立大学に入学して、日本の歴史と言語学を専攻したのです。日本語をマスターするには留学しなければならないと思いましたので、山梨学院大学で生きた日本語を身につけるチャンスに恵まれてうれしいです。

日本という国をどう思いますか？

日本の豊かできれいな自然に魅了されています。自然環境もいいし、日本人は勤勉でやさしくて親切な人達だと思っています。

ネフスキー先生のごことは誰からどのように聞いていましたか？

ネフスキー曾祖父のごことは祖母だけではなく、祖母の思い出を聞いて育った母も話してくれました。

ネフスキー先生が、小樽商科大学でロシア語を教えていたことを知っていましたか？

曾祖父が小樽高等商業学校（現小樽商科大学）のロシア語教師を務めたことは知っていました。

ネフスキー先生のことをどう思いますか？

ネフスキーは曾祖父であり、親戚として大切に思っている一方で、偉大な業績を残した素晴らしい学者であり、大先生として大変尊敬しております。

日本国内のゆかりの地を旅行する計画はありますか？

もちろん、曾祖父の関係のある場所をできるだけたくさん旅行したいです。また、曾祖父だけでなく曾祖母と関係のある場所も旅行したいです。

将来の夢をお聞かせください

まず完璧な日本語を話せるようになって、日本のこと（文化、歴史等）を研究し続けながら自分の研究テーマの研究を続けたいと思っています。